

滋病防第2号
令和6年(2024年)1月10日

各関係機関の長様
病害虫防除推進員様

滋賀県病害虫防除所長

防除情報第13号の送付について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

令和5年度防除情報第13号

令和6年(2024年)1月10日
滋賀県病害虫防除所

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による 被害の防止に努めましょう

対象作物：イネ

病害虫名：スクミリンゴガイ

積雪の少ない暖冬年には、スクミリンゴガイの越冬量が多くなります。本貝は移植直後のイネ稚苗を食害するため、暖冬年の次作では、本貝による食害が多く発生しています（図）。向こう3か月の気象予報（大阪管区気象台2023年12月19日発表）では、2024年1～3月の気温は高いと予報されており、本貝の越冬量が多くなり、発生地域では次作での被害の増加が懸念されます。次作での被害を防止するため、地域の実情に応じて取り組める防除を実施しましょう。

防除上注意すべき事項

- （1）本貝は収穫後のほ場や用排水路の土中に潜って越冬する。ほ場を耕うんすると、越冬貝の貝殻を壊す（割る）とともに、土壌表面に掘り起こし寒風にさらすことで越冬量を減らすことができる。収穫後に耕うんを実施していないほ場では、厳寒期前の1月中に高回転のロータリーでほ場を丁寧に耕うんする。
- （2）作業後の農業機械に付着した泥に本貝が混ざり、未発生地域へ持ち込まれる可能性があるため、作業を行うほ場の順番を考慮する。また、作業後は農業機械に付いた泥をよく洗浄する。
- （3）稲作期間の防除は、スクミリンゴガイ防除対策マニュアル（滋賀県 2022）を参考に検討する。マニュアルは[当所HP](#)で確認できる。

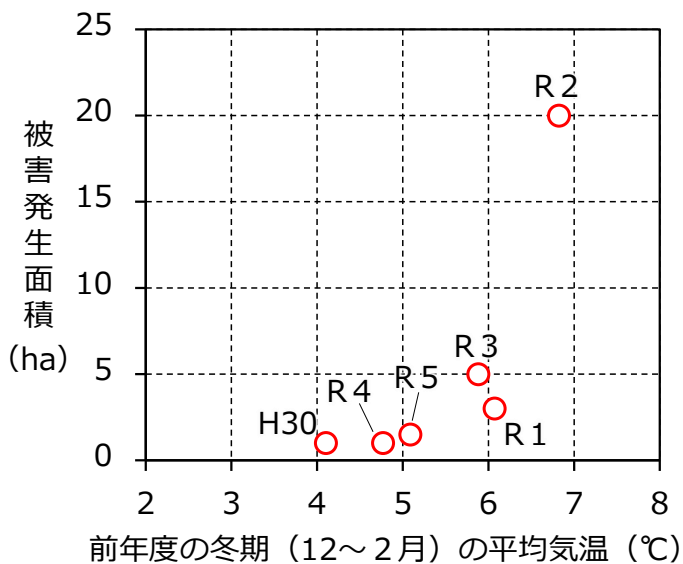


図 冬期の気温とスクミリンゴガイによる被害発生面積の関係（病害虫防除所調べ）。前年度の冬期が温暖であった令和2年には、本貝による被害が多く発生しました。

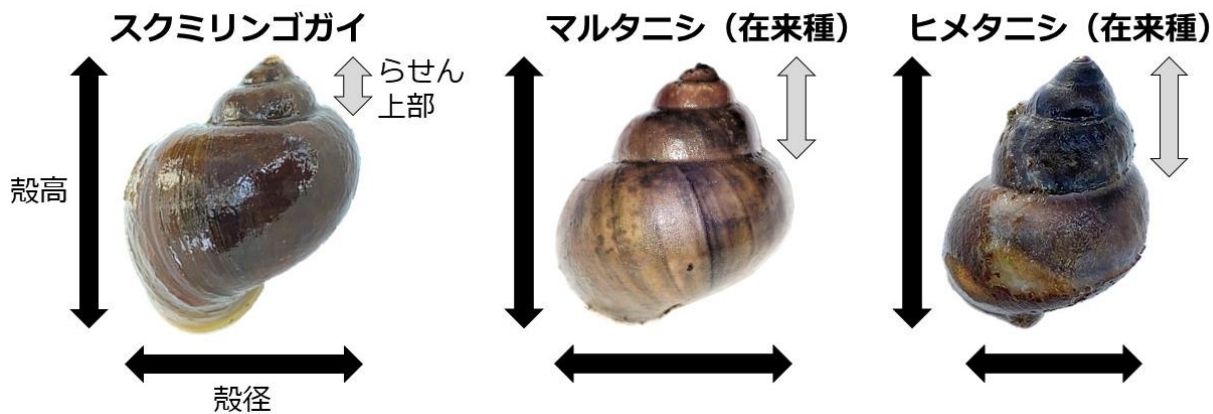


写真1 スクミリンゴガイと在来タニシ類の貝殻。スクミリンゴガイの貝殻は丸く（殻高と殻径の長さがほぼ同じ）、加えて、らせん上部が短いことも特徴です。

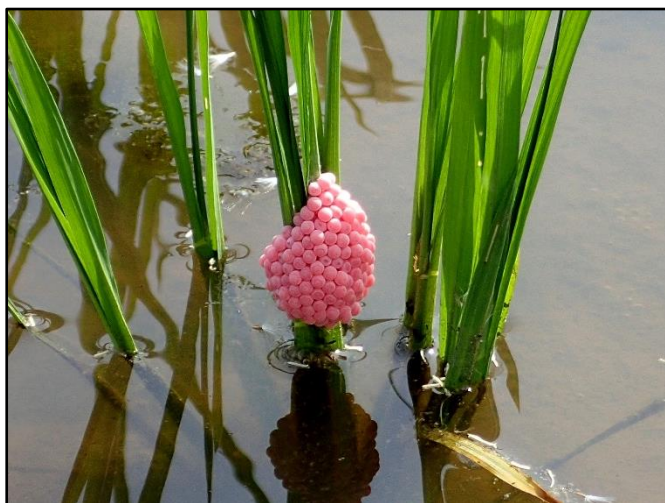


写真2 スクミリンゴガイの卵塊。稲株や畦畔など、水のない陸上に産み付けられます。

お問い合わせ先：滋賀県病害虫防除所
 TEL:0748-46-4926 FAX:0748-46-5559
 Email:gc70@pref.shiga.lg.jp
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

農薬を扱うみなさまへ

農薬取締法や滋賀県では、農薬を販売する者・使用する者が守らなければならない事項、守っていただきたい事項を次のように定めています。このことを守り、農薬の適正な流通、安全・適正な使用に努めましょう。

下線部は、農薬取締法・関係法令で定められ、農薬を扱うものが守るべき事項です。

下線部を守らないと、**農薬取締法違反で罰せられる可能性があります。**

1. 販売に関すること

- ① 農薬登録番号等が適正に表示された農薬および特定農薬以外の農薬を販売しないこと。
- ② 販売禁止農薬を販売しないこと。
- ③ 農薬の効果等に関して、虚偽の宣伝をして販売しないこと。
- ④ 無登録の農薬について、農薬登録を受けていると誤認させるような宣伝をしないこと。
- ⑤ 販売者は、取り扱う全ての農薬について、種類別に仕入数量と譲渡数量（水質汚濁性農薬については譲渡先別譲渡数量）を帳簿に正確に記載し、3年間保存すること。
 - ・ 農薬の種類ごとに日別に記載し、在庫管理ができる帳簿にしてください。
 - ・ コンピューターで管理している場合は、過去の実績をプリントアウトしておいてください。
- ⑥ 農薬登録がされていない「農薬に該当しない除草剤」は、容器又は包装に農薬として使用できない旨を表示すること。

また、「農薬に該当しない除草剤」の販売者は、販売所ごとに公衆の見やすい場所に、「農薬に該当しない除草剤」を農薬として使用できない旨を表示すること。
- ⑦ 農薬は他の品目（特に食品）と混在して陳列しないでください。
- ⑧ 農薬は住居（生活空間）で保管しないでください。
- ⑨ 農薬はいつも目の届く場所に陳列してください。
- ⑩ 盗難防止対策をとってください。
- ⑪ 最終有効年月を過ぎた農薬は販売しないようにしましょう。
- ⑫ 毒物・劇物を販売している方は、毒物及び劇物取締法の規定を遵守してください。

2. 使用に関すること

- ① 農薬登録番号等が適正に表示された農薬および特定農薬以外の農薬を使用しないこと。
- ② 販売禁止農薬を使用しないこと。
- ③ 食用農作物等に農薬を使用するときは、次に掲げる基準を遵守すること。
 - ・ ラベルに記載されている農作物のみに当該農薬を使用すること。
 - ・ 使用量：面積当たりの規定量を超えて農薬散布をしない。
 - ・ 希釈倍率：規定された希釈倍率の最低限度を下回る希釈倍数での農薬散布をしない。
 - ・ 使用時期：規定された使用時期以外に農薬散布をしない。
 - ・ 各有効成分ごとの総使用回数を超えて使用しないこと。

（種苗を用いる場合は、種苗に表示のある有効成分ごとの農薬の使用回数を勘案する必要がある）
 - ・ 最終有効年月を過ぎた農薬を使用しないようにしてください。
- ④ 次に掲げる事項を帳簿に記載するようにしてください。

農薬を使用した年月日・場所・農作物等・農薬の種類又は名称・使用量・希釈倍数
- ⑤ ゴルフ場において農薬を使用しようとするときは、農薬使用計画書を農林水産大臣・環境大臣に提出すること。また、計画に変更がある場合も同様に、計画変更届を提出すること。
- ⑥ 農作物等・人畜・生活環境動植物に害を及ぼさないようにすること。
- ⑦ 農作物等および土壌、水質に汚染が生じ、かつ、その汚染が原因となって人畜に被害が生じないようにすること。
- ⑧ 農薬保管・使用にあたっては、飛散・流出・揮散しないようにしてください。
- ⑨ 農薬は鍵のかかるところで、食品等の他のものと区別して保管してください。
- ⑩ 毒物・劇物を扱う方は、毒物および劇物取締法の規定を遵守してください。